

令和7年度定期総会開催



鈴木支部長総会最後の挨拶



今年も浪江町で開催
会費改正・新組織のスタート

双風

臨時版

四月十五日、火曜日、令和七年度「双葉支部定期総会」が、桜舞い散る浪江町の「いいこの村なみえ」で開催されました。県内外から総会に十五

また春が来て

20名の懇親会参加者、笑顔勢揃い



編集発行

福島県公立学校
退職校長会双葉支部

発行責任者
小野田 敏之

事務局

〒963-8025

福島県郡山市
桑野5-11-18

鈴木孝彦

090-7063-3587

名、懇親会には二十名のみなさんが参加され、「双葉の灯は消さない」ための協議、意見・情報交換を行いました。また欠席された会員のみなさんからも、温かいメッセージをいただきました。離れていてもなお、双葉の灯を共有できた時間でした。

新組織・会費改正

役員改選において、鈴木恵一支部長が退任され、新たに小野田敏之支部長にバトンが渡されました。鈴木恵一先生には、十五年に渡り本支部運営にご尽力いただき、誠にお疲れ様でした。さらに、小野田敏之支部長を中心に会員減少の課題解決、「双葉の灯は消さない」ための取り組みが必須となります。また、昨年度の総会で決

定済みであります「年会費の変更」については、今年度より実施されます。現在の四千円から震災前の六千円になることを確認し合いました。

新会員歓迎・懇親会



先輩・後輩なく笑い、語り合うひととき

総会後、同会場にて新入会員の歓迎会及び懇親会が行われました。今年度は、三名の新入会員を迎えることとなりました。ご挨拶をいただき、緊張がほぐれたところで和気藹々の懇親の場となりました。参加者お一人お一人の近況を発表していただく時間も設けました。退職し、年

メッセージお寄せください

あの日あのかの思い出、今こんなこととしてます等々のメッセージをお寄せください。会報「双風」に掲載させていただければ幸甚です。写真データ等もあれば送信ください。寄稿多数の場合、次号に繰り越して掲載します。

<字数> 400～500字程度、題字・名前含まない

<送り先> ※郵送、Eメールどちらも可

〒963-025 福島県郡山市桑野5丁目11-18 鈴木孝彦

Eメール Cs7t-szk@asahi-net.or.jp

齢を重ねてもなお、仕事に取り組む方々、趣味や特技を生かし職人肌を磨く方々、老いを感じさせないバイタリティーとモチベーションの高さに感心させられるばかりでした。双葉郡浪江町での夜が、楽しく、穏やかに更けてゆきました。



「感謝」 鈴木 恵一

期総会を開催。
感無量でした

平成二十三年三月十日、大熊町文化センターの特別会議室で、理事会が開催され、平成二十三年定期総会の内容や進め方を協議し、四月の総会を待つばかりでした。

しかし、翌日、東京電力福島第一原子力発電所の事故で、双葉郡の全町村を始め、近隣の市町村まで避難指示が出ることになるとは思ってもいませんでした。当時、大熊町教育委員会の指導主事として勤務しており、武内教育長からの命で、会津若松市に学校を開設する仕事に追われていました。高田支部長さんと相談し、今年度の総会中止する旨、支部会員に連絡することになりました。ところが、殆どの方は固定電話で通じるはずもなく、色んな方のご協力を得て、やっと全員と連絡出来たのは一年を過ぎてからでした。そして、翌年の四月。定

が、避難のご心労からか、亡くなった方が例年より多かったのは残念でした。高田支部長さんのあと、江尻支部長さんに任せましたが、十分な支えになれなかったのが悔やまれます。

愛車より遙か磐梯山を臨む、晴天なり

あれから十四年。原発事故避難の惨状の記憶を記録にすべく、「双葉の灯は消さない」第一集と第二集を発刊できたのは、皆さんのお陰です。感謝申し上げます。

後任の小野田敏之支部長さんは、私が大熊中学校の教頭に赴任した時の同僚で

人格、識見共に素晴らしい方です。会員の減少など課題山積ですが、「双葉の灯は消さない」ためにも、ぜひ、ご支援、ご協力をお願いいたします。

「双葉の灯を消さない」
鈴木恵一氏から
小野田敏之氏へ
思いをつなぐ

【令和7年度双葉支部】

○会員数 101名

○役員

- ・支部長 小野田敏之
- ・副支部長 遠藤弘通
渡邊由起子、松本浩一
- ・監事 八島 敬
箭内晴好
- ・理事 関本征司
吉田弘見、庄野富士男
矢内賢太郎、古田研寿
猪狩良一、横田善広
佐伯哲夫、高田英世
- ・庶務 鈴木孝彦
阿部 央
- ・会計 松岡保夫

「よろしくお願いいたします」
小野田 敏之

四月より支部長をお引き受けいたしました。鈴木恵一先生には、長い間誠にありがとうございました。鈴木先生のようににはできませんが、皆様にご協力していただきたいと思います。

さて、去る六月十日に、南会津町において退職校長会の県大会が開催されました。本支部は発表担当になっており、小野田が代表し

て発表いたしました。これまでの双葉支部へのご支援に対して感謝と御礼を申し上げ、現在の双葉郡の様子、支部会員の皆様の避難状況、支部の幾つかの取り組みについて報告させていただきます。

大会の会場となった南会津田島は、私も一家で避難した思い出深いところですが、いろいろなことが蘇ってくる一日となりました。

最後に、近況を報告させていただきます。白河に家を建て、双葉の家は今春解体しました。週に一度、葛尾村で子どもたちと剣道をしています。また、軽登山や蕎麦打ち、野菜づくりも楽しんでいきます。

お悔やみ申しあげます

令和七年四月三十日、元本支部支部長でありました高田久夫先生がご逝去されました。謹んで、御冥福をお祈り申し上げます。

退職校長会

入会にあたって

星 輝伸 氏

私が福島県の教員になったのは、昭和六十三年四月です。昭和時代最後の採用でした。あれから三十八年、昨年還暦を迎えました。教員として山あり谷ありでしたが、無事にここまで務めることができたのも、諸先輩方の支えがあつてのこととあらためて感謝しています。

本来なら満六十歳を迎えた昨年、退職または再任用になる予定でしたが、一昨年から制度変更により、特例任用校長として教育現場に残ることができました。現在にはなみえ創成小学



校に勤務しています。なみえ創成小学校は、八年前に旧浪江東中学校の校舎を改修してできた新しい学校です。創立初年度、児童数は八名でした。現在は六十二名。児童数の増加はうれしい限りです。新たに浪江町に移住した児童もいて、町への理解を深めてもらうための地域学習にも力を入れています。

新入会員のみなさん どうぞよろしく！

私は富岡町の出身です。双葉郡出身の管理職も少なくなっています。東日本大震災とその後、の経緯を経験しない教職員が多くなってきました。震災の記憶の継承が今後の課題と考えています。

今後ですが、特例任用校長を終えたら畑仕事、釣り、旅行、スキーと現職の時にはあまりできなかった事を

やろうかと考えています。ゴルフや旅行、畑仕事、木工等楽しそうに話をされる先輩方の話を伺い、私もその仲間入りを楽しみにしています。

まずは健康第一

横山 浩志 氏

令和六年度で役職定年し震災後に転居した郡山市の自宅に戻りました。最後の三年間は十一年ぶりに双葉郡に戻り地元の浪江町や双葉郡の教育復興のため、先輩方のご指導ご支援により充実した三年間を過ごしました。十年間の単身赴任も終わり、時間に余裕ができたことでこれまでできなかったことに挑戦していきます。庭木の剪定は、YouTubeで剪定の解説動画を参考に技術を学んでいます。近所の除草ボランティアも始めました。趣味のスポーツ観戦も幅を広げ、高校のバスケットボール大会



新たなスタート

武内 雅之 氏

や福島県のプロチームのバスケットボールや女子バレーボール、独立リーグ野球を観戦し、熱狂する会場でパワーをもらっています。これまで健康診断の再検査の部分もしっかりと通院し、改善の方向に向かうことができています。朝には散歩している犬たちがいっぱいいる公園に出向き、心も癒されながら、散歩やラジオ体操を行っています。心身ともに健康な生活を続け、新たなことにどんどん挑戦し続けていきたいと思っています。

なるご指導を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。教師生活三十八年のちょうど半分を富岡町の小中学校、避難先の三春校に勤務させていただきました。最後の離任式においても、小中学校の子どもたち、卒業した高校生、三十代になる教子たちに見守られ、自身の大きな区切りとなる大切な一日を務めあげることができました。



振り返れば、これまで子どもたちや保護者・地域の方々に支えられ、育てていただいた思いを胸に、微力ながら富岡町への恩返しを、新しいスタートを切ることとなりました。学校現場しか知らない私にとって、わからないことばかりですが、子どもたちの笑顔のため、富岡町のために、経験を生かしてでき

ることを一つ一つ取り組んでいきたいと考えています。

今後とも本会の皆様のご指導をいただけますようお願い申し上げます。

※武内雅之先生は、四月より富岡町教育長、横山浩志先生は、六月より浪江町教育長としてお務めです。

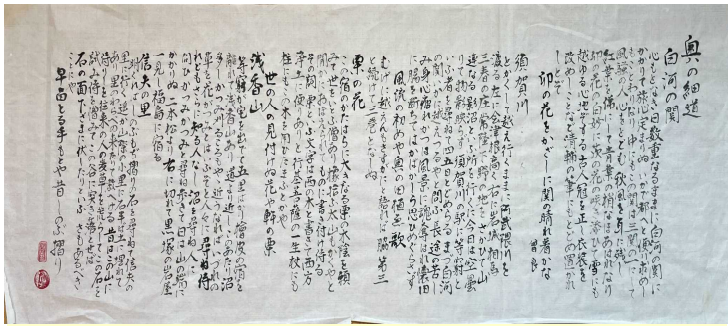
☆喜寿を迎えて

遊びをせんとや

庄野 富士男氏

喜寿という人生の節目の年を迎え、思うことはあと何年元気でいられるのかという事です。七十歳の時に人から言われてうれしい言葉がありました。「庄野さんいい時にきたなあ!あなたはこの二十一年間は毎日楽しく遊べるぞ!」これは囲碁入門をした時の九十歳になる会長の言葉です。あの日から七年が経ちましたが、ほぼ全戦全敗いくら石を置いても勝てません。楽しい境地にはほど遠

い状況です。囲碁は布石から始まり石の死活、手筋、定石、ヨセなど考えることや学ぶべきことが多岐に渡ります。近所には県代表の方もいます。野球の千本ノックのように簡単な詰碁を瞬時に解く練習をせよと言われています。前途は遙か彼方ですが続けたいと思っています。



「奥の細道 白河の関・須賀川・・・」これはお宝?

心の糧にしている言葉があります。『遊びをせんとや生まれけん。戯れせんとや生まれけん。(梁塵秘抄)』

今までやろうと思ってもらなかつたことに挑戦し、やり残しが無い人生を全うしようと思っています。まずは、**奥の細道全文**を筆写したいと思います。



松岡会計より
喜寿祝品贈呈



第五十九回県大会会津 大会が南会津で開催



双葉支部

六月十日(火)、第五十九回県退職校長会県大会会津大会が南会津町御蔵入交流館で開催されました。双葉支部からは、小野田敏之支部長、松本浩一副支部長、鈴木孝彦庶務の三人が出席しました。

大会は、開会、記念講演、体験発表、大会宣言、閉会の流れで進められました。その中の体験発表において、小野田支部長が発表を行いま

した。発表題は、『震災と事故後十四年、双葉の今』でした。縁あって南会津の地に避難した体験、双葉支部会員の現状、「双葉の灯は消さない」ための取り組み等、心を込めて参加会員へ伝えました。

また、記念講演では、『米焼酎ねっか只見を生き抜く』と題して株式会社ねっか社長、脇坂齊弘氏が熱く語りました。「ねっかさすけねえ」全然大丈夫」という地元の方言から取り入れた名前、只見の米作りを支え、地域に貢献する人材づくりを担う等、過疎高齢化、農業離れの問題を解決していこうとする意気込みを十分に感じました。

編集後記

『お辞儀して共によりけるクラス会』会員の皆様、どうぞ心身ともにお元気で。次回は、元気な同好会の様子などお伝えできればと思います。皆様のメッセージもお待ちしています。

